



キウイフルーツの輸入



- ・東京港のシェアは、輸入数量・金額ともに全国の約3割以上を占め、**第1位**。(2014年)
- ・例年、4月から11月頃にかけて輸入が集中。
- ・2014年における全国の輸入金額は222.1億円で、**過去最大**を記録。

はじめに

甘酸っぱくてジューシーな果物、キウイフルーツ。年間を通してスーパーマーケット等で買うことが出来る定番の果物のひとつといえます。キウイフルーツといえば果肉が緑色のグリーンキウイがポピュラーですが、最近では果肉が黄色のゴールドキウイも良く見かけるようになりました。

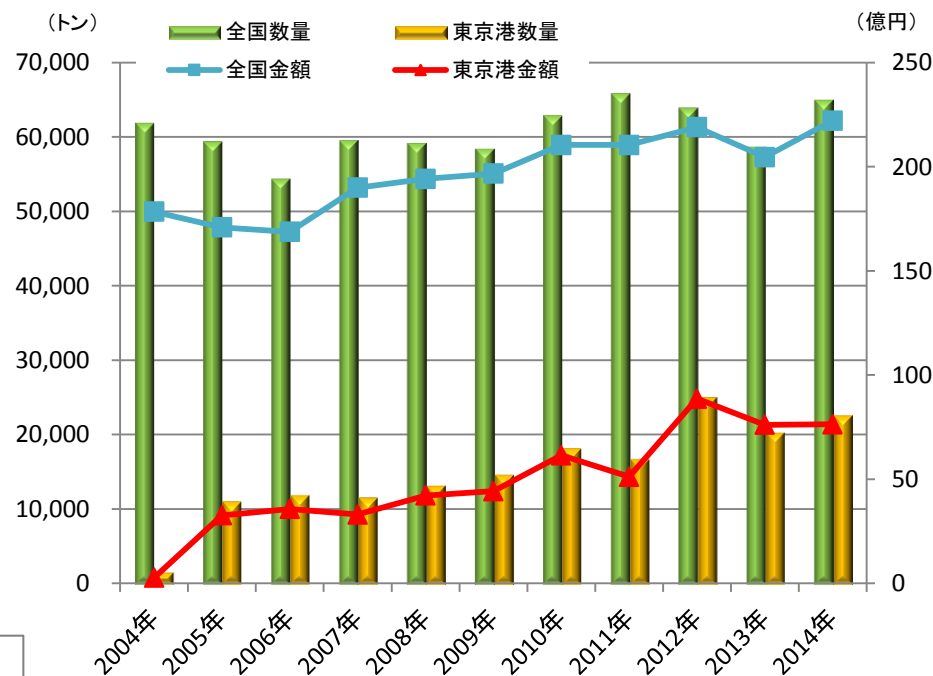
キウイフルーツは中国が原産とされ、現在では世界各地で生産されており、日本でも生産が盛んです。農林水産省の統計によれば、愛媛、福岡、和歌山などが主要産地で、2013年は全国で26,100トン(※)が出荷されています。一方で、キウイフルーツは海外からの輸入が盛んな果物でもあり、2014年は全国で数量65,061トン、金額222.1億円の輸入実績がありました。

今回は、昨年における東京港のシェアが輸入数量・金額ともに1位を占め、例年、4月から輸入が活発になるキウイフルーツにスポットを当ててみました。

※農林水産省 平成25年産果樹生産出荷統計より

・本特集の「キウイフルーツ」は、次の輸入統計品目番号に分類されるものについてまとめたものです。
1988年-1995年「0810.90-010」、1996年以降「0810.50-000」(品名:キウイフルーツ(生鮮のもの))
なお、2015年3月分は速報値です。

キウイフルーツの輸入推移グラフ



1. 輸入動向

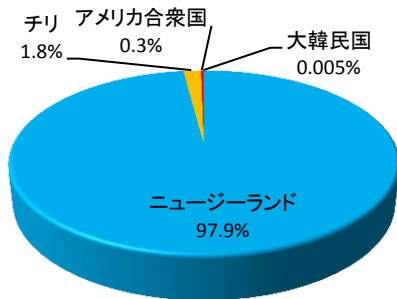
	全国				東京港			
	数量 (トン)		金額 (億円)		数量 (トン)		金額 (億円)	
		(前年比)		(前年比)		(前年比)		(前年比)
2004年	61,955	-	178.4	-	1,623	-	2.7	-
2005年	59,435	95.9%	170.9	95.8%	11,160	687.6%	32.6	1205.9%
2006年	54,479	91.7%	168.8	98.8%	11,951	107.1%	35.7	109.5%
2007年	59,618	109.4%	189.9	112.5%	11,640	97.4%	33.0	92.3%
2008年	59,222	99.3%	194.2	102.3%	13,213	113.5%	42.1	127.8%
2009年	58,501	98.8%	196.7	101.3%	14,671	111.0%	44.2	104.9%
2010年	62,963	107.6%	210.5	107.0%	18,196	124.0%	61.5	139.1%
2011年	65,895	104.7%	210.5	100.0%	16,734	92.0%	51.2	83.2%
2012年	63,970	97.1%	219.0	104.1%	24,999	149.4%	88.6	173.2%
2013年	58,747	91.8%	204.6	93.4%	20,312	81.3%	76.1	85.9%
2014年	65,061	110.7%	222.1	108.6%	22,587	111.2%	76.4	100.3%
2014年1月-3月	127	-	0.4	-	112	-	0.4	-
2015年1月-3月	168	132.1%	0.6	157.9%	44	39.3%	0.2	47.8%

- ・2014年の全国における輸入金額は過去最大
- ・東京港は、輸入数量・金額ともに増加基調で推移

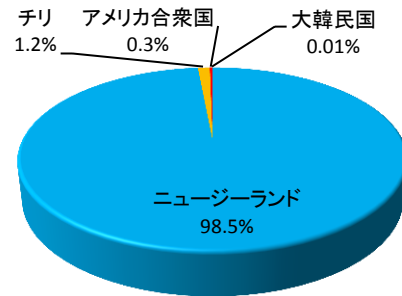
2014年の全国におけるキウイフルーツの輸入実績は、数量 65,061トン、金額 222.1億円であり、数量においては、過去最大であった2011年に次いで2位、金額においては過去最大でした。また、東京港では、数量22,587トン、金額 76.4億円であり、数量・金額ともに過去最大であった2012年に次いで2位でした。

全国における2004年からの輸入数量・金額の推移を見ますと、数量は概ね横ばいで推移し、金額は増加基調で推移しています。また、東京港では、数量・金額ともに2005年に大きく増加した後、増加基調で推移しています。

2. 国別 数量・金額シェア (全国)



2014年全国数量 65,061トン



2014年全国金額 222.1億円

ニュージーランドが圧倒的シェア

2014年に全国で輸入されたキウイフルーツの国別内訳を見ますと、ニュージーランドが数量シェア97.9%、金額シェア98.5%と圧倒的シェアで1位となっています。2位はチリで数量シェア1.8%、金額シェア1.2%、3位はアメリカ合衆国で数量シェア0.3%、金額シェア0.3%となっています。また、大韓民国からも若干の輸入があります。

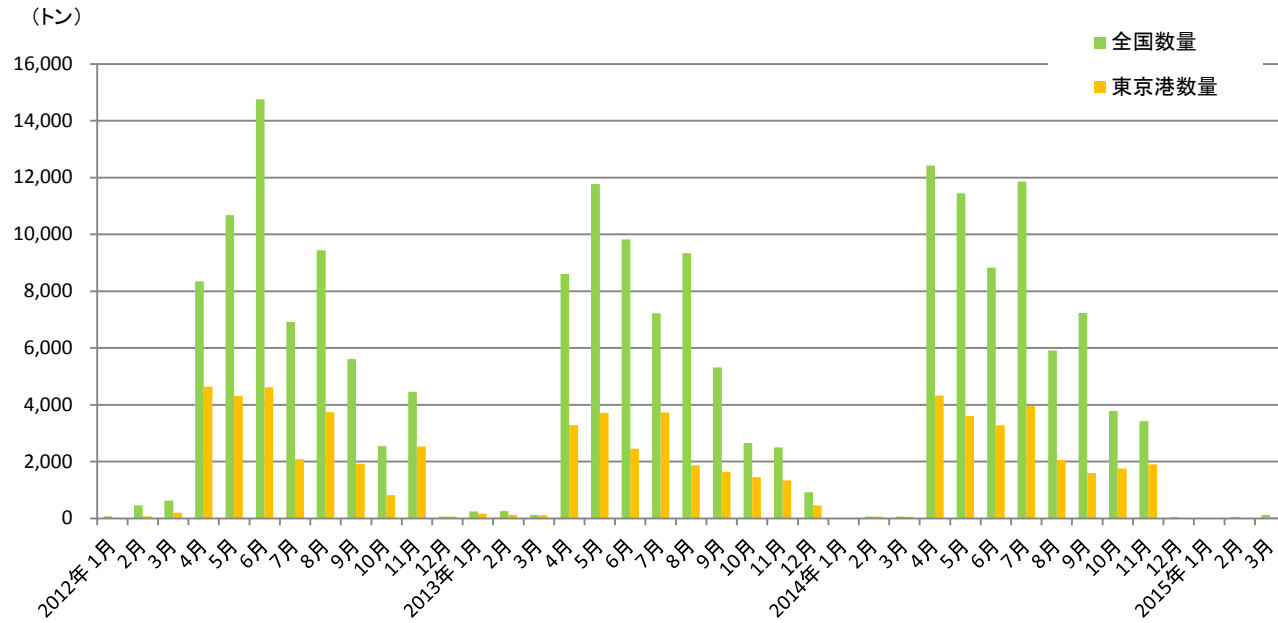
【参考】キウイフルーツ生産量上位5カ国(2013年)

国	生産量(トン)
中華人民共和国	1,765,847
イタリア	447,560
ニュージーランド	382,337
チリ	255,758
ギリシャ	162,800

出典: FAOSTAT

FAO (国際連合食糧農業機関) の統計によれば、2013年における世界のキウイフルーツ生産量は約326万トンでした。生産国のトップは中華人民共和国で、2013年の生産量は約177万トンと、世界の生産量の約半数を生産しています。以下、イタリア、ニュージーランド、チリ、ギリシャが生産量上位の国々となっています。

3. 月別 輸入数量の推移



4月から11月頃にかけて輸入が集中

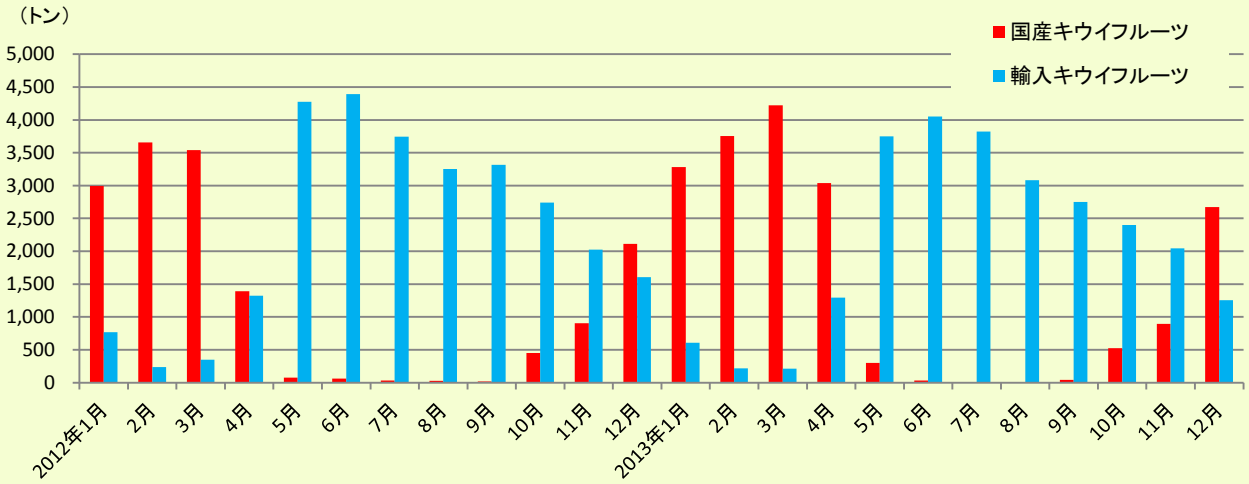
近年における全国の月別輸入数量の推移を見ますと、4月から11月頃にかけて輸入が集中しています。また、東京港における月別輸入数量の推移についても、全国と同様の傾向となっています。

一方、農林水産省の統計によると、国産キウイフルーツは主に冬場を中心に流通しています。

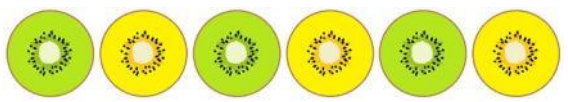
業界によれば、キウイフルーツは、秋から冬場を中心に収穫シーズンを迎える果物とのことで、北半球の日本と主要輸入相手国である南半球のニュージーランドとでは、季節が正反対の関係にあることから、国内では、冬場を中心に国産キウイフルーツが流通し、国産キウイフルーツが端境期を迎える春から秋を中心に輸入キウイフルーツが流通する状況となっています。

このように、国産キウイフルーツと輸入キウイフルーツは補完的な関係となっており、私たちは年間を通してキウイフルーツを購入することができます。

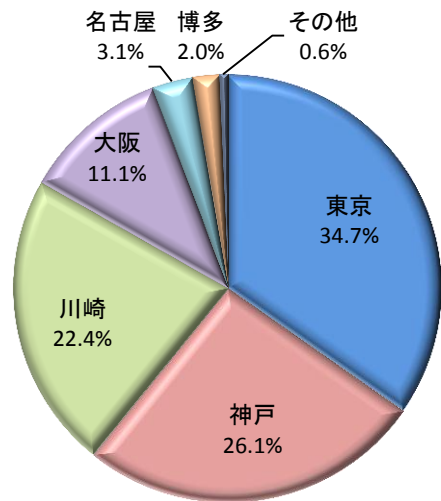
国内主要都市における国産キウイフルーツ及び輸入キウイフルーツの月別卸売数量の推移



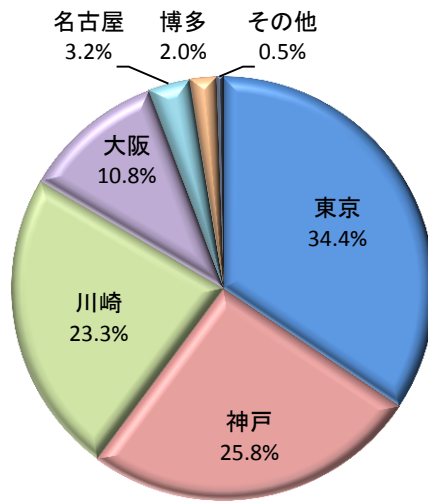
出典：農林水産省 青果物卸売市場調査報告 主要都市の月別果実の卸売数量



4. 港別シェア (2014年)



2014年全国数量 65,061トン



2014年全国金額 222.1億円

輸入数量・金額ともに東京港が1位

2014年における港別のシェアを見ますと、東京港が数量で34.7%、金額で34.4%を占め、全国1位の港となっています。その他の港の状況を見ますと、神戸・川崎・大阪といった、人口の多い都市部を後背地として抱える海港が上位を占めています。

業界によれば、キウイフルーツは適切な温度管理を行うことにより長期保管が可能であることから、輸送には専ら船便が使われるとのこと。

●キウイフルーツの栄養素

キウイフルーツは、身近な果物の中でも優れた栄養特性を有し、ビタミンC・食物繊維・葉酸などの含有量が多いのが特徴です。

- ・**ビタミンC**
美肌づくりに必要な栄養素で、抗酸化作用があり、ストレスに負けない体をつくり、風邪や感染症の予防に役立つといわれています。
- ・**食物繊維**
おなかの調子を整えたり、生活習慣病の予防に役立つ栄養素です。キウイフルーツには水溶性と不溶性の2種類の食物繊維が含まれ、腸内環境の改善をサポートします。
- ・**葉酸**
健康な赤血球をつくる造血のビタミンといわれる栄養素です。胎児の正常な発達を助けます。
- ・**カリウム**
全身の細胞を正常に働かせるためのミネラルです。食塩(ナトリウム)の排泄を促す効果があります。血圧を正常に保ち、むくみ予防にはたります。
- ・**ビタミンE**
抗酸化作用があるので、アンチエイジングに役立ちます。血流をよくするので、冷え性を解消したい人は積極的にとりたい栄養素です。

●キウイフルーツ特有の酵素: アクチニジン

アクチニジンは、主に果肉が緑色のキウイフルーツに含まれるたんぱく質分解酵素です。肉料理や魚料理など、たんぱく質が豊富に含まれるものを食べる時に一緒に食べると、たんぱく質の消化をよくしてくれます。

●●●● 今後の見通しについて ●●●●

業界によれば、「日本人の果物消費量が総じて減少傾向にある中で、キウイフルーツの消費量は少しずつ増加してきている。近年、テレビでもキウイフルーツの健康効果が紹介されるなど、栄養が豊富で、手軽に食べることが出来るキウイフルーツの良さが徐々に認知されてきている。健康・美容志向の高まりの中で、これからも消費が拡大されることが期待される。」とのことです。

取材協力：ゼスプリ インターナショナル ジャパン株式会社 他

【本資料に関する問い合わせ】

東京税関 調査部 調査統計課 TEL：03-3599-6385（直通）

〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎 2階

※本資料を引用する際は、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

（参考）本文中に掲載されているグラフの具体的な数量及び金額

2. 国別 数量・金額シェア（全国・2014年）

国	数量（KG）	金額（千円）
ニュージーランド	63,718,479	21,880,513
チリ	1,144,590	265,576
アメリカ合衆国	195,112	63,839
大韓民国	3,000	1,565
総計	65,061,181	22,211,493

3. 月別 輸入数量の推移

（単位：KG）

		（単位：KG）											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全国数量	2011年	-	201,330	180,830	12,825,291	14,053,026	7,403,965	6,688,744	10,882,732	7,367,085	1,790,599	4,448,165	52,986
	2012年	67,990	460,362	624,832	8,345,796	10,681,306	14,762,536	6,919,920	9,439,411	5,603,495	2,540,959	4,458,792	64,613
	2013年	242,898	252,621	123,012	8,606,237	11,773,732	9,819,845	7,218,512	9,333,407	5,314,333	2,649,169	2,498,197	915,184
	2014年	-	63,573	63,573	12,427,058	11,443,192	8,825,520	11,858,804	5,911,868	7,234,915	3,782,486	3,415,632	34,560
	2015年	-	52,986	114,999									
東京港数量	2011年	-	53,994	68,490	2,713,250	5,332,933	1,498,992	1,280,998	3,366,799	1,712,752	705,414	-	-
	2012年	17,853	68,538	193,701	4,641,371	4,311,045	4,611,998	2,080,839	3,734,738	1,918,400	822,262	2,533,981	64,613
	2013年	161,267	124,272	106,680	3,282,254	3,709,762	2,452,345	3,720,373	1,869,415	1,643,046	1,443,486	1,339,782	459,709
	2014年	-	63,573	48,333	4,324,169	3,604,264	3,271,034	3,965,510	2,059,596	1,590,839	1,756,782	1,902,904	-
	2015年	-	-	43,979									

4. 港別シェア（2014年）

港	数量（KG）	金額（千円）
東京	22,587,004	7,635,831
神戸	16,983,192	5,729,557
川崎	14,586,934	5,175,539
大阪	7,205,337	2,405,913
名古屋	1,986,219	704,746
博多	1,310,908	453,913
その他	401,587	105,994
総計	65,061,181	22,211,493

国内主要都市における国産キウイフルーツ及び輸入キウイフルーツの月別卸売数量の推移

（単位：トン）

		（単位：トン）											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
国産キウイフルーツ	2012年	2,994	3,658	3,539	1,390	76	60	33	28	17	450	906	2,111
	2013年	3,280	3,755	4,223	3,039	298	31	9	5	42	524	895	2,672
輸入キウイフルーツ	2012年	769	239	350	1,323	4,277	4,394	3,742	3,253	3,318	2,740	2,023	1,604
	2013年	605	218	213	1,292	3,749	4,050	3,820	3,084	2,749	2,402	2,043	1,256

出典：農林水産省 青果物卸売市場調査報告 主要都市の月別果実の卸売数量